一月の俳句

（２０２２／０１）

目次

歳時記俳句　1〜
モーロク俳句　6〜
たべもの俳句　10〜

< 1月の他の別名 >
祝月（いわいづき）・始和（しわ）・正月（しょうがつ）・早緑月（さみどりづき）・年端月（としはづき）・太郎月（たろうづき）・王春（おうしゅん）・建寅月（けんいんげつ）・初春月（はつはるづき）

（宇佐美保幸）メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巣鴨とげぬき徒然俳句
https://blog-haiku.777usami.com

老夫婦平凡をこそ元日や
厳かにその気はなくも初日の出
テレビ見て全国神社初詣
初詣ハイキングです七福神
喜寿の年むかえてブログ励みけり

筆初めメール初めや初づくし
一点に宇宙も一つ弓始め
喜寿なれどめでたくもなし寝正月
淑気などみじんもなきしわが部屋は
宇宙ゴミ海中ゴミも寒の入り

ミニ社会ミニミニミニと葉ボタンや
布袋様変わらぬお腹年新た
顔認証出勤管理松明ける

蝋梅の香りは誰のためなのか
蝋梅は静かに咲いて無表情

臘梅は何にはにかむ月に添え

身の丈を知りし幸せ福寿草
寅さんはどこで見つけた福寿草
福寿草花が終わればどこへ行く
生け花に使えぬ花や福寿草
福寿草降圧剤にだまされる
差別など意識はないが福寿草
置き去りの限界集落福寿草

願ふことピンピンコロリ去年今年
去年今年かかとあかぎれ手入れする
喜寿となるブログ原稿去年今年

朝一番コップ一杯寒の水
都会では縁薄きかな寒の水
運命に逆らうなかれ冬桜

消防団待機をさせてお焚き上げ
左義長や縄文遺跡土偶かな

温暖化期間限定寒見舞

寒すずめ格差是正は進んだか
年金で生きて幸足る寒雀
ロボットが人を追い越し寒雀
逃げ逃げて飛んでは飛んで寒雀

水仙の群や静かに瀬戸の島
水仙にナショナリズムを感じけり

日脚伸ぶ猫に負けじと四肢伸ばす
日向ぼこ靴下脱げば爪が伸び
日向ぼこ猫の神様鎮座して
日向ぼこ脳細胞は萎縮する
繰り返す相づち難儀日向ぼこ

陽を溜めて日向ぼこする幸せを
日向ぼここのまま死んで大往生

大寒の背骨は曲がり骨が泣く
大寒も変わらぬホーム整列し

雑草のなぜか名前は仏の座
ザイフリボク冬芽に綿毛絶妙に
温暖化期間限定寒見舞

焦るだけ焦るだけの日冬昴
若き日の背広終活寒昴

ヒートテック下着争う冬の闇
ファンタジーそれとも地獄冬の闇

結局は望み叶わず寒椿
冷たしと思う真白な寒椿

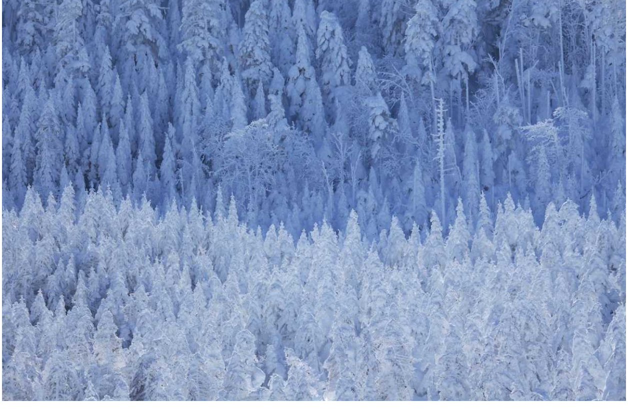
誰のため咲いて後悔白椿

我が庭に雪を降らしめ雪景色

昭和かな津軽海峡冬景色

冬日向御朱印受くる街散歩

樹氷林すべてを隠す虚構かな



モーロク俳句

ご多幸を祈られ年賀モーロクす
モーロクし吾のあるべし初御空
モーロクし無為の徒となり雑煮かな

初夢やモーロクすればこんなもん
モーロクし宝船乗る誘われて
初鏡モーロク顔は変わりなし
モーロクしそれとなく見る初鏡

モーロクし持て余す餅雑煮椀
モーロクししっかり噛んで雑煮餅
モーロクしこころに支え寒椿

葉ボタンの渦にめまいやモーロクし
初春と気負いしモーロク寝正月

モーロクしよろよろ廻る独楽となり
モーロクし鞭を入れたし松過ぎる
モーロクし松過ぎしこと忘れたる

モーロクしされどモーロク淑気かな
とんど焼き焼かれたき吾モーロクし
モーロクし我が一生をどんど焼き

モーロクし冬のバナナを買ってみる
臘梅が咲いて一年モーロクす

モーロクし見えぬ見えぬと冬の闇
モーロクし虫の音聞こゆ冬の闇
モーロクし油断大敵冬うらら

モーロクしからだも透けて冬の水
モーロクし舟唄聴いて過ごす冬

モーロクし冬こそくらく冬の道

モーロクし堪えきれずに大寒に
大寒やモーロクすれど歯を磨き

モーロクしだんだん違う冬の月
冬の月モーロクすれば欲捨てて
モーロクしトンネル長し冬の月
モーロクしわが影恐るる寒満月

モーロクしその気はなくも湯冷めする
モーロクし気力も失せて湯冷めする

モーロクし自問自答や山眠る
底冷えやモーロクすれば眠りこけ
底冷えやモーロクすれば骨も冷え

モーロクしお迎へそこまで雪しんしん

モーロクし命に限り降る雪よ
降る雪にモーロク進みただ生きる
モーロクしどこか痛くて残る雪

モーロクしどこで終止符深き冬
モーロクしごわごわ夢の冬の夜

冬の雷モーロクすれど先走る
モーロクし骨は軋める水涸るる

モーロクし今生きること氷柱伸ぶ
氷踏む覚悟モーロクその覚悟

モーロクし脳内未開日向ぼこ
モーロクしなにを白紙に日向ぼこ
日向ぼこモーロクすれど猫言葉
モーロクし孤独になれて日向ぼこ
モーロクし日差し斜めに日向ぼこ

たべもの俳句

お雑煮は餅より汁をたつぷりと
お雑煮も絶滅危惧種日本かな

あんぱんのあんこ飛び出す初夢や
胃やすめに釜揚饂飩薬味汁
お昼にはフライドチキン四日かな

豚しゃぶにあくが浮かんで寒の月
夕ご飯鰤の塩焼き七味ふる
人日のブラック珈琲苦すぎて
七草はなけれど今日は粥とする
七日粥深夜に作り朝を待つ

えびせんをぱりつぱりつと冬の月
松過ぎて夫婦のお昼きなこ餅

朝六時鶏雑炊で冬の朝

湯豆腐や不要不急の話だけ
湯豆腐や今夜は肉もプラスして

にんじんをにんじん色にソテーして
厚つ厚つの卵サンドや冬のカフェ

中華街豚の丸焼き雪の日も
こんにゃくを手綱に結び女正月
初聖天大黒屋にて海老天を

目玉焼き今朝の命の寒卵
寒卵納豆ぐるぐる朝ご飯
キムチチゲスープ真っ赤に外は雪

岡山の酒と演歌と冬の月
シャキシャキの水菜シンプルサラダかな

大寒に茶柱そして粥柱
れんこんもペペロンチーノ常備菜

ビーフカレーただただ煮込み春隣
白菜を刻み塩もみサラダにも

雪の日は担々麺と決めていて
雪の日の娘の餃子破裂する

大根を焦がして焼いてステーキに
大根をステーキにして宇宙あり

かしら串これも焼き鶏からしぬり
焼き鳥屋まずは鶏皮まずビール

言い訳をいくつも準備冬林檎
粕汁を二人で食べて二人酔う

とんかつを卵でとじて冬銀河
冬深し朝から煮込むモツ煮込み